

設定理由：日常生活行動からみた「からだ」を理解するために、動くという行動に関わる人体の構造と機能について学び、看護の展開に活用できるための科目として設定した。

科目目標：動くという行動に関わる人体の構造と機能および時間経過における変化（発生・発達・老化）について理解する。

単 元	単 元 目 標	教 授 内 容	時 間	方 法
1. 人体	1. 人間の生活行動に関する人体の構造と機能について理解する。	1. 生活を支える体 1) 人体 2) 化学の基礎 3) 細胞と組織 4) 皮膚と膜	10	講 義
2. 動く	1. 動くことに関する人体の構造と機能について理解する。	1. 骨組みと体型一体の枠組をつくる 1) 骨の形態と機能 2) 関節の構造と機能 3) 全身の骨格  2. 力を発揮する 1) 筋肉の構造と働き 2) 全身の骨格筋とその分類  3. 生活動作のメカニズム 1) 姿勢を保つ 2) 立つ、座る 3) 起き上がり、歩く（移動） 4) つまむ 5) 表情  4. 運動のメカニズム 1) 随意運動 2) 不随意運動	19	
3. 評価			1	
評価方法	試験で評価する 方法は担当講師に一任する			
テキスト	坂井 建雄 他： 系看専門基礎 解剖生理学（医学書院）			

設定理由：日常生活行動からみた「からだ」を理解するために、調節機能を維持する・話す・聞く・眠るという人体の構造と機能について学び、看護の展開に活用できるための科目として設定した。

科目目標：調節機能を維持する・話す・聞く・眠るための人体の構造と機能および時間経過における変化（発生・発達・老化）について理解する。

単 元	単 元 目 標	教 授 内 容	時間	方 法
1. 生体を包み外界と内部機構を調整し、生活を支えるシステム	1. 生体を包み外界と内部機構を調整し、生活を支えるための人体の構造と機能について理解する。	1. 生きているとはどういうことか 2. 生体を包み外界と内部機構を調整し、生活を支える体の形態と機能 1) 神経性調節 (1) 感覚器—情報を得る (2) 神経系—刺激を伝達し、情報を処理・指令する (3) 内分泌系—ホルモンにより液性調節を促す 2) 生体機能の統合性 (1) ストレスとストレス反応 (2) 異物の侵入、侵襲に対する生体防御	23	講義
2. 話す	1. 話すという生活行動に関わる構造と機能について理解する。	1. 声を出す 1) 発声器官とその機能 2) 言語野の連携 3) 声帯の構造と機能	2	
3. 聞く	1. 聞くという生活行動に関わる構造と機能について理解する。	1. 耳の構造 1) 音 2) 聴覚器の構造と機能 3) 平行感覚器の構造と機能	2	
4. 眠る	1. 眠るという生活行動に関わる構造と機能について理解する。	1. 眠る 1) 眠り 2) からだのリズム 3) 睡眠の生理	2	
5. 評価			1	
評価方法	試験で評価する 方法は担当講師に一任する			
テキスト	坂井 建雄 他：系看専門基礎 解剖生理学（医学書院） 田中 宏一：専門基礎分野「解剖学」講義サブテキスト			

科目：形態機能学Ⅲ（息をする・循環する・恒常性を保つ）

1単位（30時間）

設定理由：日常生活行動からみた「からだ」を理解するために、息をする・循環する・恒常性を保つための人体の構造と機能について学び、看護の展開に活用できるための科目として設定した。

科目目標：息をする・循環する・恒常性機能を保つための人体の構造と機能および時間経過における変化（発生・発達・老化）について理解する。

単 元	単 元 目 標	教 授 内 容	時 間	方 法
1. 息をする	1. 息をするという人体の構造と機能について理解する。	1. 息を吸う・息を吐く（呼吸器系）の構造と機能 2. ガス交換の仕組み 3. 呼吸運動の調節	10	講 義
2. 循環する	1. 循環するという人体の構造と機能について理解する。	1. 生体内の物質の循環 1) 循環器系の構造と機能 2) 物質の運搬	10	
3. 恒常性を保つ	1. 生体内の恒常性を保つための構造と機能について理解する。	1. 生体の防御機構 1) 非特異的生体防御機構 2) 特異的生体防御反応 3) 生体防御の発生・発達 2. 熱産生機構 1) 体温の恒常性を保つメカニズム	9	
4. 評価			1	
評価方法	試験で評価する 方法は担当講師に一任する			
テキスト	坂井 建雄 他： 系看専門基礎 解剖生理学（医学書院）			

設定理由：日常生活行動からみた「からだ」を理解するために、食べる・トイレに行くという行動に関わる人体の構造と機能について学び、看護の展開に活用できるための科目として設定した。

科目目標：食べる・トイレに行くという行動に関わる人体の構造と機能および時間経過における変化（発生・発達・老化）について理解する。

単 元	単 元 目 標	教 授 内 容	時 間	方 法
1. 食べる	1. 食べることに関する人体の構造と機能について理解する。	1. 食欲と食行動 1) 空腹感と満腹感 2) 食欲、食行動における自律神経の働き 2. 咀嚼し味わう 1) 口腔の構造と機能 2) 咀嚼の過程 3. 飲み込む（嚥下） 1) 咽頭の構造と機能 2) 食道の構造と機能 3) 嚥下の過程 4. 食物を取り入れ生体を栄養する（消化と吸収） 1) 消化管の構造と機能 2) 消化液の作用 3) 消化液分泌の調節吸収後の養分 自己学習：嚥下・消化吸収について	8	講 義
2. トイレに行く	1. 排泄に関する人体の構造と機能について理解する。	1. 食物残渣をまとめて便をつくる 1) 結腸、直腸、肛門の構造と便の生成 2) 排便のメカニズム 2. 老廃物をより分け尿をつくる 1) 腎臓、膀胱、尿道の構造と機能 2) 排尿のメカニズム 自己学習：排泄について	6	
3. 評価			1	
評価方法	試験で評価する。 方法は担当講師に一任する。			
テキスト	坂井 建雄 他： 系看専門基礎 解剖生理学（医学書院）			

設定理由：人間のライフサイクルにおける子どもを産むという行動に関わる人体の構造と機能、および新生児の生理的変化について学び、看護の展開に活用できるための科目として設定した。

科目目標：子どもを産むための行動に関わる人体の構造と機能および時間経過における変化（発生・発達・老化）と胎外生活に適応するための新生児の生理について理解する。

単 元	単 元 目 標	教 授 内 容	時 間	方 法
1. 人体の発生 (男と女)	1. 人体の発生（生殖細胞・性染色体）について理解する。  2. 女性の体について理解できる。  3. 男性の体について理解できる。	1. 発生の初期過程 1) 生殖細胞 2) 性染色体と性の決定  1. 女性のからだ 1) 生殖器の構造と機能 2) 性周期 3) 生殖能力および性反応  1. 男性のからだ 1) 生殖器の構造と機能 2) 生殖能力および性反応	4	講 義
2. 妊娠と分娩	1. 妊娠・分娩経過について理解できる。	1. 妊娠と分娩 1) 性交と受精 2) 胎盤と臍帯 3) 胎児の発育 4) 分娩	4  2	
3. 新生児	1. 新生児の生理的変化について理解できる。	1. 新生児の生理 2. 原始反射  解剖見学	4	演習
4. 評価			1	
評価方法	試験で評価する 方法は担当講師に一任する			
テキスト	坂井 建雄 他： 系看専門基礎 解剖生理学（医学書院）			

設定理由：生体を構成している物質の機能と代謝を理解し、食物を通し看護の対象者の健康に関する援助が考えられるように科目として設定した。

科目目標：人体の構成成分と物質代謝について理解し、健康な栄養状態を維持・増進に必要な知識を理解する。

単 元	目 標	教 授 内 容	時間	方 法
1. 臨床栄養学の基礎理解	1. 臨床栄養学の理解と栄養学の基礎知識を理解する。	1. 臨床栄養学の意義と看護 2. 栄養とは 3. 日本人の食事摂取基準 4. 栄養アセスメント	2	講 義
2. 生体内の物質代謝とエネルギー代謝	1. 生体を構成している物質の化学的構造、性質、機能を栄養との関連を踏まえて理解する。  2. 生命活動に不可欠なエネルギーをどのような方法で獲得し、利用しているのかを理解する。  3. 生命を維持していくために、物質がどこでどのように代謝され利用されているのかを理解する。	1. 糖質 2. 脂質 3. たんぱく質 4. 核酸 5. ホルモン 6. ビタミン 7. 水と無機質  1. エネルギーの必要性 2. 高エネルギー化合物（ATP、クレアチニンリン酸） 3. 生命活動におけるエネルギーの利用  1. 糖質 1) 消化、吸収、代謝 2) グリコーゲンの合成、分解 3) エネルギーの貯蔵 4) 血糖の調節 5) 糖尿病 6) 糖代謝異常 2. 脂質 1) 消化、吸収、代謝 2) コレステロール、胆汁酸 3) リポタンパク質 4) プロスタグランディン 5) 飽和脂肪酸と不飽和脂肪酸の栄養学的意義 6) 動脈硬化、高脂血症 7) 脂肪肝 3. タンパク質、アミノ酸 1) 消化、吸収、代謝 2) 窒素平衡 3) アミノ酸代謝異常 4. 代謝調節 1) 代謝経路の全体像 2) 解毒機構	10	

単 元	目 標	教 授 内 容	時 間	方 法
3. 日常生活と栄養	1. 食生活と栄養管理の必要性について理解できる。	1. 食文化 2. 運動と栄養	4	演習
4. ライフステージと健康な食生活	1. 各ライフステージの栄養について理解できる。	1. 母性の栄養 2. 各発達段階における健康生活と栄養	4	
5. 療養生活と栄養	1. 疾病と食事や栄養との関連について理解できる。	1. 検査のための食事 2. 治療による回復を促すための食事 3. 疾病を治療するための食事 4. 嚥下障害のある人のための食事 5. 経口摂取ができない患者のための栄養管理	5	
6. 食事指導の実際	1. 対処の状況に応じた食事指導方法が理解できる。	1. 健康増進のための食事指導 2. 食習慣改善のための食事指導	4	
7. 評価			1	
評価方法	試験で評価する 方法は担当講師に一任する			
テキスト	中村 丁字他：系看専門基礎 栄養学 (医学書院)			

設定理由：従来の「病理学」ではなく、看護実践でより必要な、機能的に人間を見、その機能の不調がなぜ起こり、どのように現れるかを理解する病態生理的などらえ方で構成されているので、臨床場面に即した学習ができることから科目として設定した。

科目目標：病気の理解の基礎となる病因と病変の特徴について理解する。

単 元	単 元 目 標	教 授 内 容	時 間	方 法
1. 人体の構造と機能と逸脱	1. 人体の構造と機能の理解と、症状・徴候の理解ができる。	1. 身体における本来の働きと乱れ 2. 炎症と修復 3. 変性・壊死 4. 腫瘍と過形成	4	講 義
2. 身体の不調	1. 病態と症状・徴候との関係性が理解できる。	1. 身体の不調のとらえ方 2. 各症状の原因と分類 3. 各症状の発症のメカニズムと分析	8	
3. 老化と死	1. 老化による組織や臓器の変化が理解できる。	1. 老化とは 2. 死とは 3. 老化と死	2	
4. 評価			1	
評価方法	試験で評価する。 方法は担当講師に一任する。			
テキスト	大橋 健一 : 病理学 (医学書院) 田中 越郎 : 病態生理学 (医学書院)			

設定理由：微生物とは何か、その原因としての病原体を理解し、患者の体内ではどのように病原体と闘い、排除しようとしているのかを理解し、そのうえで治療法や予防法を学ぶ必要があることから科目として設定した。

科目目標：微生物の特徴と生体に及ぼす影響を学び、感染予防の原則と対応について理解する。

単 元	単 元 目 標	教 授 内 容	時 間	方 法
1. 微生物の概念	1. 微生物の概念と分類が理解できる。	1. 微生物の概念 1) 微生物とは 2) 微生物の分類	2	講 義
2. 感染と発病	1. 感染症の成り立ちが理解できる。	1. 感染症と発病 1) 顕性感染と不顕性感染 2) 常在細菌叢と菌交代症 3) 潜伏感染 4) 日和見感染 5) 感染発病と生体への影響	5	
3. 感染症と予防	1. 感染症が理解できる。	1. 感染症と予防 1) 感染症と感染経路 2) 感染症の予防および感染症の患者に対する医療に関する法律 3) 院内感染の予防	4	
4. 病原体と疾患・その対策	1. 病原体と疾患の関係が理解できる。 2. 滅菌と消毒を区別して理解できる。	1. 病原体と疾患・その対策 1) 細菌学 2) 真菌学 3) ウィルス学 4) 原虫学 5) 滅菌と消毒 6) 感染性廃棄物の処理	6	演習
5. 代表的な臨床における感染症	1. 臨床に発生しやすい感染症が理解できる。	1. 気道感染・インフルエンザ 2. 食中毒 3. 薬剤耐性菌 4. 性感染症・母子感染 5. 針刺しと感染症	1 2	演習
6. 評価			1	
評価方法	試験で評価する。 方法は担当講師に一任する。			
テキスト	南嶋 洋一：系看専門基礎 微生物学 (医学書院) 矢野 久子：ナーシング・グラフィカ⑤ 臨床微生物・医動物 (メディカ出版)			

科目：疾病論Ⅰ（運動機能障害）

1単位（15時間）

設定理由：運動機能の障害の原因・分類、主な疾患の病態生理、症状、経過、検査、治療について学び、看護の対象の状況把握、今後看護の方向性が考えられるために必要な科目として設定した。

科目目標：運動機能の障害の原因・分類、主な疾患の病態生理、症状、経過、検査、治療について理解する。

単 元	単 元 目 標	教 授 内 容	時 間	方 法
1. 運動機能の障害	1. 運動機能障害を起こす疾病の原因と病態生理、症状、経過、検査、治療について理解する。	1. 運動を妨げられる障害及び生活を創り出す機能の障害を起こす疾病の原因と病態生理、症状、経過、検査、治療 1) 運動機能のフィジカルエグザム 2) 先天性疾患 3) 骨折 4) 脱臼 5) 捻挫・打撲 6) 骨・関節の炎症性疾患 7) 骨腫瘍 8) 代謝性骨疾患 9) 脊椎の疾患	14	講 義
2. 評価			1	
評価方法	試験で評価する。 方法は担当講師に一任する。			
テキスト	織田 弘美 :系看専門Ⅱ 運動器 (医学書院)			

設定理由：中枢神経機能・感覚機能の障害の原因・分類、主な疾患の病態生理、症状、経過、検査、治療について学び、看護の対象の状況把握、今後の看護の方向性が考えられるために必要な科目として設定した。

科目目標：中枢神経機能・感覚機能の障害の原因・分類、主な疾患の病態生理、症状、経過、検査、治療について理解する。

単 元	単 元 目 標	教 授 内 容	時 間	方 法
1. 脳機能の障害を 起こす疾病	1. 脳機能障害を起こす 疾病の原因と病態生理、 検査、治療について理 解する。	1. 脳機能障害を起こす疾 病の原因と病態生理、経 過、検査、治療、予 防 1) 脳神経系のフィジカ ルエグザム 2) 頭蓋内圧亢進を伴う 疾患 3) 神経変性・脱髄性の 疾患 4) 痴呆 5) 微生物の中脳神経へ の感染 6) 頭部の外傷 7) 二次的に意識障害・ 神経障害を起こす疾 患	17	
2. 感覚機能の障 害による疾病	1. 感覚機能の障害によ る疾病の原因と病態生 理、検査、治療につ いて理解する。	1. 視覚障害を起こす疾 病の原因と病態生理、 経過、検査、治療 2. 聴覚障害を起こす疾 病の原因と病態生理、 経過、検査、治療 3. 臭覚・咽喉頭の障 害を起こす疾病の原 因と病態生理、経過、 検査、治療 4. 皮膚の障害を起こ す疾病の原因と病態生 理、経過、検査、治 療	4 2 2 4	
3. 評価			1	
評価 方法	試験で評価する。 評価方法は担当講師に一任する。			
テ キ ス ト	井出 隆文 :系看専門Ⅱ 脳・神経 (医学書院) 佐藤 博子 :系看専門Ⅱ 皮膚 (医学書院) 大鹿 哲郎 :系看専門Ⅱ 眼 (医学書院) 小松 浩子 :系看専門Ⅱ 耳鼻咽喉 (医学書院)			

設定理由：生命維持機能障害の原因・分類、主な疾患の病態生理、症状、経過、検査、治療について学び、看護の対象の状況把握、今後の看護の方向性を見極めるための必要な科目として設定した。

科目目標：生命維持機能障害の原因・分類、主な疾患の病態生理、症状、経過、検査、治療について理解する。

単 元	単 元 目 標	教 授 内 容	時 間	方 法
1. 呼吸・循環・体温のつながりとその障害	1. 呼吸、循環障害の原因と病態生理、症状、経過、検査、治療について理解する。	1. 呼吸障害を起こす疾病の原因と病態生理、症状、経過、検査、治療、予防 1) 呼吸機能のフィジカルエグザム 2) 感染症 3) 気道の疾患 4) 肺の疾患 5) 胸膜・縦隔の疾患	1 2	講 義
2. 体液の調節障害	1. 体液の調節障害を起こす疾病の原因と病態生理、症状、経過、検査、治療について理解する。	2. 循環障害を起こす疾病の原因と病態生理、症状、経過、検査、治療、予防 1) 循環機能のフィジカルエグザム 2) 虚血性心疾患 3) 心筋疾患 4) 心臓弁膜症 5) 血管の疾患 6) 不整脈 7) 血圧の異常 8) 心不全	1 4	
3. 評価		1. 体液の調節障害を起こす疾病の原因と病態生理、症状、経過、検査、治療、予防 1) 電解質の異常	3	
評価方法	試験で評価する。 方法は担当講師に一任する。			
テキスト	浅野浩一郎 :系看専門Ⅱ 呼吸器 (医学書院) 上塚 芳郎 :系看専門Ⅱ 循環器 (医学書院)			

設定理由：生体防御・内部環境調節機能障害の原因・分類、主な疾患の病態生理、症状、経過、検査、治療について学び、看護の対象の状況把握今後の看護の方向性が考えられるための必要な科目として設定した。

科目目標：生体防御・内部環境調節機能障害の原因・分類、主な疾患の病態生理、症状、経過、検査、治療について理解する。

単 元	単 元 目 標	教 授 内 容	時 間	方 法
1. 生体防御機能の障害	1. 生体防御機能障害を起こす疾病の原因と病態生理、症状、経過、検査、治療について理解する。	1. 生体防御機能障害を起こす疾病の原因と病態生理、症状、経過、検査、治療 1) 生体防御機能のフィジカルエグザム 2) 造血機能障害 3) 免疫機能障害 4) 多臓器不全 5) 移植	1 1	講 義
2. 内部環境調節機能の障害	1. 内部環境調整機能障害を起こす疾病の原因と病態整理、症状、経過、検査、治療について理解する。	1. 内分泌機能障害を起こす疾病の原因と病態生理、症状、経過、検査、治療 1) 視床下部一下垂体系の疾患 2) 甲状腺・副甲状腺疾患 3) 副腎疾患 2. 代謝障害を起こす疾病の原因と病態生理、症状、経過、検査、治療 1) 糖尿病 2) 高脂血症 3) 肥満症 4) 尿酸代謝障害 3. 自律神経調節障害を起こす疾病の原因と病態生理、症状、経過、検査、治療	1 8	
3. 評価			1	
評価方法	試験で評価する。 方法は担当講師に一任する。			
テキスト	岩田健太郎 : 系看専門Ⅱ アレルギー 膠原病 感染症 (医学書院) 黒江ゆり子 : 系看専門Ⅱ 内分泌・代謝 (医学書院) 飯野 京子 : 系看専門Ⅱ 血液・造血器 (医学書院)			

設定理由：栄養の摂取・消化・吸収・代謝・排泄機能の障害の原因・分類、主な疾患の病態生理、症状、経過、検査、治療について学び、看護の対象の状況把握、今後の予測が考えられるための必要な科目として設定した。

科目目標：栄養の摂取・消化・吸収・代謝・排泄機能の障害の原因・分類、主な疾患の病態生理、症状、経過、検査、治療について理解する。

単 元	単 元 目 標	教 授 内 容	時 間	方 法
1. 栄養代謝機能の障害	1. 消化・吸収・代謝障害を起こす疾病の原因と病態生理、症状、経過、検査、治療について理解する。	1. 消化・吸収・代謝障害を起こす疾病の原因と病態生理、症状、経過、検査、治療 1) 消化・吸収機能のフィジカルエグザム 2) 歯、口腔疾患 3) 食道疾患 4) 胃、十二指腸疾患 5) 腸、腹膜疾患（排便障害） 6) 肝、胆嚢疾患 7) 膵臓疾患	1 7	講 義
2. 排泄(尿)機能の障害	1. 排泄(尿)機能障害を起こす疾病の原因と病態生理、症状、経過、検査、治療について理解する。	1. 排泄(尿)・男性機能障害を起こす疾病の原因と病態生理、症状、経過、検査、治療 1) 排泄(尿)機能のフィジカルエグザム 2) 腎疾患 3) 結石 4) 尿路腫瘍 5) 感染による疾患 6) 男性生殖器疾患	1 2	
3. 評価			1	
評価方法	試験で評価する。 方法は担当講師に一任する。			
テキスト	金田 智 : 系看専門Ⅱ 消化器 (医学書院) 大東 貴志 : 系看専門Ⅱ 腎・泌尿器 (医学書院) 青木 春恵 : 系看専門Ⅱ 歯・口腔 (医学書院)			

科目：疾病論VI（性・生殖器機能障害）

1 単位（15 時間）

設定理由：性・生殖機能の障害の原因・分類、主な疾患の病態生理、症状、経過、検査、治療について学び、看護の対象の状況把握、今後看護の方向性が考えられるために必要な科目として設定した。

科目目標：性・女性生殖機能の障害の原因・分類、主な疾患の病態生理、症状、経過、検査、治療について理解する。

単 元	単 元 目 標	教 授 内 容	時 間	
1. 性・生殖機能の障害	1. 性・生殖機能の障害による疾病の原因と病態生理、症状、経過、検査、治療について理解する。	1. 性・生殖機能の障害を起こす疾病の原因と病態生理、症状、経過、検査、治療 1) 性・生殖機能のフィジカルエグザム 2) 外陰の疾患 3) 膣の疾患 4) 子宮の疾患 5) 卵巣・卵管の疾患 6) 感染性の疾患 7) 不妊症 8) 周産期の障害 (1) 妊娠中毒症 (2) 胎児仮死 (3) 流産・早産 (4) 常位胎盤早期剥離 (5) 帝王切開分娩 (6) 産褥熱 9) 乳房の疾患	10	
2. 評価			4	
			1	
評価方法	試験で評価する。 方法は担当講師に一任する。			
テキスト	池田 正：系看専門Ⅱ 女性生殖器（医学書院）			

設定理由：小児期によく見られる主な健康障害や、よく見られる症状に対する看護が理解できるよう科目として設定した。

科目目標：小児期によくみられる主な健康障害や、症状の原因や病態理解・症状、診断や治療、検査について理解する。

単 元	目 標	教 授 内 容	時間	方 法
1. 形態的特徴	1. 各小児期の形態的特長が理解できる。	1. 新生児・乳児 2. 幼児・学童 3. 思春期・青年期	4	講 義
2. 健康を障害された子どもの理解	1. 子どもに出現しやすい疾病の原因や病態生理・症状、診断や治療、検査について理解する。	1. 小児期によく見られる健康障害 1) 胎内での影響 (1) 染色体異常 (2) 低出生体重児 2) 呼吸器に障害がある小児 (1) 肺炎 (2) 気管支喘息 3) 循環器に障害がある小児 (1) 先天性心疾患 (2) 川崎病 4) 消化器に障害がある小児 (1) 先天性奇形（鎖肛） (2) 急性胃腸炎 (3) 腸重積症 5) 血液・造血気に障害がある小児 (1) 血管性紫斑病 6) 腎・泌尿器に障害がある小児 (1) ネフローゼ症候群 (2) 急性糸球体腎炎 7) 運動器に障害がある小児 (1) 先天性股関節脱臼 5) その他 (1) 脳性麻痺 (2) IDDM (3) 白血病 (4) 感染症	10	
3. 評価			1	
評価方法	試験で評価する。 評価方法は担当講師に一任する。			
テキスト	奈良間 美保 :系看専門Ⅱ 小児臨床看護各論 (医学書院)			

科目：臨床薬理学

1単位（30時間）

設定理由：治療・処置に必要な薬物の作用、人体への影響を理解することは各看護学の展開の基礎である。また、薬物管理についての基礎的知識を学ぶことも必要なため科目として設定した。

科目目標：薬物の特徴、作用機序、人体への影響について理解する。

単元	単元目標	教授内容	時間	方法
1. 薬と薬理学	1. 薬の種類と法令が理解できる。	1. 薬と薬理学	4	講義
2. 薬物の薬理作用	1. 薬物の人体への影響が理解できる。	1. 薬物の薬理作用 1) 薬物の人体の受容 2) 薬物の体内動態 3) 薬効に影響を及ぼす要因	6	
3. 人体の各器官への影響	1. 薬の人体の各器官への作用・副作用が理解できる。	2. 薬の種類と作用 1) 内服薬 2) 注射薬 3) 外用薬 4) 吸入薬	15	
4. 薬物管理	1. 薬物の取り扱いについて理解できる。	1. 人体の各器官への作用・副作用 1) 抗感染症・消毒薬 2) 免疫治療薬 3) アレルギーおよび炎症への薬 4) 末梢での神経活動への薬 5) 中枢神経系への薬 6) 心臓・血管系への薬 7) 呼吸器・消化器・生殖器系への薬 8) 抗癌剤 9) 漢方薬		
5. 評価		1. 薬物の取り扱いについて 2. 薬物と看護師の役割	1	
評価方法	試験で評価する。 方法は担当講師に一任する。			
テキスト	大鹿 英世：系看専門基礎 薬理学（医学書院） 井上 智子他：系統看護学講座 臨床薬理学 別巻（医学書院）			

科目：健康と公衆衛生

1 単位（15 時間）

設定理由：社会のなかで健康な生活を送る人たちに看護を提供するためには公衆衛生活動や看護の役割を理解する必要があることから科目として設定した。

科目目標：公衆衛生の基本内容を知り、健康生活に影響する保健活動を理解する。

単 元	単 元 目 標	教 授 内 容	時間	方 法
1. 健康と公衆衛生	1. 公衆衛生と健康の関連性について理解できる。	1. 公衆衛生の概念 2. 健康と環境 3. 疫学的方法による健康の理解	2	講 義
2. 健康指標と予防	1. わが国における衛生統計およびその予防について理解できる。	1. 健康に関連した指標 2. 感染症とその予防	2	
3. 生活環境の保全	1. 生活環境における安全対策について理解できる。	1. 食品管理及び家庭用品 2. ゴミ・廃棄物	2	
4. 保健活動	1. 地域の保健活動について理解できる。	1. 地域保健 2. 学校保健 3. 生活習慣病予防 4. 難病対策 5. 職場の健康管理	4	
5. 公衆衛生と国際化	1. 公衆衛生に関する国際協力の必要性和社会の変貌について理解できる。	1. 公衆衛生の国際的環境 2. 社会の変貌と公衆衛生	4	
6. 評価			1	
評価方法	試験で評価する 方法は担当講師に一任する			
テキスト	芦野 由利子 :系看専門基礎 公衆衛生 (医学書院) 看護師のための地域看護学 (ピラールプレス)			

科目：健康支援方法論

1単位（15時間）

設定理由：健康や障害の概念と定義と、わが国の人々の健康状態と健康問題を理解し、看護する必要があることから科目として設定した。

科目目標：健康支援について理解し、看護活動の必要性が理解できる。

単元	単元目標	教授内容	時間	方法
1. 健康と病気におけるウェルネスの促進	1. 健康、病気、ウェルネスの定義を理解する。	1. 健康、病気、ウェルネスの定義 2. 障害の定義 3. 健康と病気 4. ヘルスプロモーション	4	講義
2. 国民の健康状態	1. 国民の健康状態と健康問題を理解する。	1. 人口動態と健康 2. 死亡を通してみる健康問題 3. 健康づくり	2	講義
3. 地域包括医療	1. 地域における健康への支援を理解する。	1. 地域包括医療とは 2. 医療を取り巻く社会情勢の変遷 3. 地域包括医療における機能分化	2	講義
4. 健康を支える代替療法	1. 代替療法の意義と役割を理解する。	1. 音楽療法 2. 園芸療法 3. ハンドセラピー 1) スウェーデンハンドセラピー	2 2 2	講義 演習
5. 評価			1	
評価方法	試験で評価する 方法は担当講師に一任する			
テキスト	茂野 香おる：系看専門Ⅰ 看護学概論（医学書院） 講師資料			

科目：保健医療論

1 単位（15 時間）

設定理由：社会における医療の動向に関心を持ち、医療・看護の諸問題を理解し、医療の変貌をもたらした時代背景を認識することで、看護の目指す目標を明確にするための科目として設定した。

科目目標：現代医療をめぐる諸問題や医療における倫理問題を理解することで人間の尊厳と医療のあり方について考えることができる。

単 元	単 元 目 標	教 授 内 容	時間	方 法
1. 保健・医療・福祉の動向	1. 保健・医療・福祉の動向について理解する。	1. 保健の動向 2. 医療の動向 3. 福祉の動向	4	講 義
2. 保健・医療・福祉チームとそれぞれの役割	1. 保健・医療・福祉それぞれの職種とその役割について理解する。	1. 保健関係職種とその役割 2. 医療関係職種とその役割 3. 福祉関係職種とその役割	2	
3. 保健・医療の潮流	1. 保健・医療の潮流について理解できる。	1. プライマリケア 2. 先端医療技術開発 3. 包括医療システム 4. 保健・医療・福祉チームと地域住民の役割	4	
4. 患者主体の医療と患者の権利	1. 患者主体の医療と患者の権利について理解する。	1. 患者主体の医療 2. 患者の権利	4	
5. 評価			1	
評価方法	試験で評価する 方法は担当講師に一任する。			
テキスト	千代豪昭：学生のための医療概論 医学書院			

科目：リハビリテーション論

1単位（15時間）

設定理由：リハビリテーション医療に伴う身体内部の変化を理解して看護する必要があることから科目として設定した。

科目目標：リハビリテーションに伴う身体内部の変化を理解する。

単 元	単 元 目 標	教 授 内 容	時間	方 法
1. リハビリテーションの定義と理念	1. リハビリテーションについて理解できる。	1. リハビリテーションの歴史 2. リハビリテーションの概念 3. 障害者の実態 4. 障害の分類と構造 5. リハビリテーションの分野 4. リハビリテーション医療システム	4	講 義
2. リハビリテーション看護	1. リハビリテーションにおける看護の役割が理解できる。	1. リハビリテーション看護の確立 2. リハビリテーション看護の機能 3. リハビリテーション看護の方法論	4	演 習
3. 各機能障害にとリハビリテーション看護	1. 各機能障害に応じた援助方法が理解できる。	3. 運動機能系 4. 中枢神経系 5. 呼吸・循環器系 6. 感覚器系	6	
4. 評価			1	
評価方法	試験で評価する 方法は担当講師に一任する			
テキスト	武田 宜子：系看別巻 リハビリテーション看護（医学書院）			

科目：社会福祉学

1単位（30時間）

設定理由：生活者の健康を守るために、保健・医療・福祉サービスを統合的に理解し、法に基づく社会福祉の方法と課題を学ぶ必要があることから科目として設定した。

科目目標：社会福祉制度について理解し、今日の問題や課題について考えることができる。

単 元	単 元 目 標	教 授 内 容	時間	方 法
1. 社会福祉・社会保障の意義	1. 社会福祉・社会保障の定義と意義が理解できる。	1. 社会福祉・社会保障とは 2. 社会福祉・社会保障の歴史 3. 社会福祉の担い手と役割	8	講 義
2. 福祉の実践、資源の活用	1. 福祉の実践方法と資源の活用方法が理解できる。	1. 社会福祉の実践方法 2. 社会資源の活用方法	6	
3. ライフサイクルと社会福祉	1. 各ライフサイクルに関する福祉関係法規とのサービスの現状が理解できる。	1. 子ども・家族と福祉 2. 障害者と福祉 3. 高齢者と福祉 4. 生活保護 5. 地域福祉	9	
4. 社会保障(社会保険)制度	1. 社会保障制度の意義が理解できる。	1. 年金制度 2. 医療保険制度 3. 介護保険制度 4. 雇用保険	6	
5. 評価			1	
評価方法	試験で評価する 方法は担当講師に一任する			
テキスト	増田 雅嶋：ナーシング・グラフィカ⑨ 社会福祉と社会保障 （メディカ出版）			

設定理由：教育理念である人間の尊厳と権利を守るための看護を行うには、看護に関する法的役割と責任の範囲を学ぶ必要があることから科目として設定した。

科目目標：看護に携わるものとして必要な基本となる法律を理解する。

単元	単元目標	教授内容	時間	方法
1. 法規の概念	1. 法の概念、法規の種類を理解する。	1. 法の概念と種類 2. 衛生法規の分類	4	講義
2. 医事法規	1. 医事法規について理解する。	1. 看護法 2. 医師法・医療法	4	
3. 保健衛生法	1. 保健衛生法規について理解する。	1. 地域保健法 2. 精神に関する法規 3. 母子に関する法規 4. 感染に関する法規 5. その他の保健衛生関係法規	4	
4. 薬務法	1. 薬事法を中心とする薬務関係法規について理解する。	1. 薬事法 2. 薬剤師法 3. 麻薬および向精神薬取締法 4. その他の薬事関係法規	4	
5. 環境衛生法規・公害衛生法規	1. 環境衛生法規・公害衛生法規について理解する。	1. 食品衛生に関する法規 2. 生活環境整備に関する法規 3. 環境衛生関係営業に関する法規 4. 環境保全に関する法規	4	
6. 労働関係法規	1. 労働関係法規について理解する。	1. 労働に関する法規	4	
7. 看護・医療事故と法的責任	1. 看護・医療事故予防に関する看護職の法的責任について理解する。	1. 医療訴訟問題の現状 2. 保健師助産師看護師法による業務範囲 3. 医師業務との関係	5	
8. 評価			1	
評価方法	試験で評価する 方法は担当講師に一任する			
テキスト	森山 幹夫：系看専門基礎 看護関係法令 (医学書院)			